



報告内容

1. 平成 17・18 年度横田班の調査
2. 平成 19・20 年度現研究班
データベース作成、および解析開始
3. Selection bias と解析の枠組み
4. 小児科医による自由記載欄の精査
5. 解析実施、および結果
6. 結論と考察、結語

分担研究者	・廣田良夫	大阪市立大学 公衆衛生学
研究協力者	・奥村彰久	順天堂大学 小児科学
〃	・小笹晃太郎	京都府立医科大学 地域保健医療疫学
〃	・鈴木宏	新潟大学 国際感染医学
〃	・中村好一	自治医科大学 公衆衛生学
〃	・細矢光亮	福島県立医科大学 小児科学
〃	・森雅亮	横浜市立大学 発生成育小児医療学
〃	・森満	札幌医科大学 公衆衛生学
〃	・山口直人	東京女子医科大学 衛生学公衆衛生学
共同研究者	・伊藤一弥	大阪市立大学 公衆衛生学
〃	・田邊卓也	市立枚方市民病院 小児科
〃	・中野貴司	(国)三重病院 国際保健医療研究室
〃	・福島若葉	大阪市立大学 公衆衛生学

研究班会議 2007.8~2008.3(13回)、2008.4~ (3回)

9

症例数

回収された症例	11,661 (692施設)
↓ 医師用・患者用調査票が一致している症例 9,358 (その他:医師用のみ 876、患者用のみ 674、事例調査票 753)	
9,358	
↓ 医師用・患者用調査票をマッチングして追加 (消印、カルテ番号、性、生年月日、初診日時、余白記入事項) 未記入箇所等追加調査: 5,313症例中、返答4,774症例 (89.9%) 迅速診断施行なしを除外	
10,316	
↓ 18歳以上を除外	
10,295	
↓ 異常行動の有無不明	
10,017	
異常行動の(有/無)判明、タミフル服薬は(使用/記載なし)	

10